

勘亭流は江戸時代に作られた歌舞伎の看板などに使われる肉太の文字で、うねった線で隙間なく構成されたとても個性的な書体です。隙間を嫌うのは、お客様が隙間なく入るようにとの願いがこめられたものとされ、縁起文字として

現代でも根強い人気があります。游勘亭流は、太くうねるような筆法や隙間を埋める構成などの勘亭流の特徴を継承しながら、読みやすくなるようにアレンジしています。

游勘亭流
大 = 60 級 /
中 = 32 級 / 行送り・40 齒 /
小 = 14 級 / 行送り・24.5 齒 /
字間調整なし

游勘亭流
大 = 60 級 /
中 = 32 級 / 行送り・40 齒 /
小 = 14 級 / 行送り・24.5 齒 /
字間調整なし

その文字は太めの筆幅で、隙間が少なく、
勘亭流の特徴や、歌舞伎の看板など、
街にあふれる看板の文字ではなく、
繪巻や雑誌、文庫などに印刷され、
読者がほとんど意識のうちに読み、
内容を理解するあの文字である。

思ひ、書くべき業の文字。
Typeface Designer と呼ぶ。

明朝体やゴシックのかたち

思想や様式でデザイン統一された
繊細の文書群をいう。
そして、書体をつくる職業を
Typeface Designer と呼ぶ。

明朝体やゴシックのかたち

